

知事賞

知事賞を戴いて

土佐伝承直傳英信流 理法塾

一色 克己

突然小生が知事賞を頂くーと聞いてビックリ。なぜ知事賞？わけもわからない中に盾を頂き、家に持ち帰りました。家内がナゼ？と言いながら、それでも喜んで娘に電話。娘から「お父さんお目出とう。何をして戴いたの」ワカラン「でも、戴いてよかったねー。もう先がなからかな？」。なんて云われー。でも悪い気はしない。これが感想です。スママセン。

生と死の間（ハザマ）に身をおいて、一瞬に勝負を決するー。のが居合である、その気持ちに近づくための稽古である。生もなければ死もない、静もなければ動もない、静すなわち動であり、動すなわち静である。これが居合の精神であるー。むずかしいですね。眼を怒らせて刀を抜きつけ、真向から斬り下す、二本目はこう。三本目はこう。と斬りつけ、斬り下して納刀。迫力満点ー。だが斬られる相手が見えて来ないー。なぜ。すえ物斬りだから。居合は自分本意でなく、相手がこう斬って来ようとしている。こう斬って来た。先の先で自分は相手のここを斬る。そのために体の動き、脚の運び、手の動きに一

定の法則がある。大刀打の位をやれば良くわかるが、本来はどこへ斬って来るかわからないのだ。そのためには自在な腰の運び脚の運びでなければならぬ。いわゆる居合腰。走るのはトラ走りだ。最近居合腰での歩きやトラ走りを見ない。「我が塾でも教えても仲々出来ない」。抜きつけ打落しなど腕の力にたよらず丹田でやってほしい。丹田を使えば腕の十分の一、二十分の一で済みつかれない、研究して下さい。

優秀賞

賞をいただく

長野県唯心会 平林 裕蔵

毎年この全国武徳祭に参加させていただき、もう三十回ぐらいになると思います。四月二十九日春まだ浅い信州の山奥から上京すること古都に春を感じ古に心わくわくする思いです。今回一般社団法人となった記念する武徳祭において優秀賞という重い賞をいただき汗顔の至りです。一、至誠に悖るなかりしか。一、言行に恥ずるなかりしか。一、氣力に缺くるなかりしか。一、努力に憾みなかりしか。一、不精に亘るなかりしか。旧海軍特別攻撃隊だった、上司がこれが武士道だ、人生仕事に生かせと。少しでも近づく様やってまいりました。歴史と